

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第185号(2022. 8. 1)
事務局 川西地区自主防災会

設立15年を振り返って

かがわ自主ぼう連絡協議会
会長 岩崎 正朔

かがわ自主ぼう連絡協議会も設立して丸15年が過ぎましたことを踏まえ15年を振り返り、設立の経緯なども含め取組み紹介したいと思います。

1. 生い立ち

平成18年秋ごろから、三豊市の齋藤さん、ドコモ四国の武智さん、NHK高松記者の徳丸さんなどと意見交換を図るなかで、同じ目線で活動している防災関係団体によって、いざ大災害発生時、「相互支援」ができる組織づくりを作ろうという意見が多く出され、香川大学の長谷川教授にもアドバイスをいただき、更に当時合同訓練を行っていた高松太田南役員の吉原さんとも打合せを重ね、かがわ自主ぼう連絡協議会を立ち上げることになりました。

2. 設立

2007(平成19年)3月7日、丸亀市川西コミュニティセンターにおいて、香川県防災局、丸亀市防災対策室、丸亀市消防本部、三木町総務課の県内防災関係機関ご出席のもと、高松市内コミュニティ、丸亀市内コミュニティ組織代表者、更には、丸亀市内小学校、中学校代表、e-とぴあ・かがわ、NTTドコモ四国、NHK高松放送局等、55名出席のもと、全員ご賛同いただき、かがわ自主ぼう連絡協議会がうぶ声をあげました。

発起人のひとりであった川西地区自主防災会会長の岩崎正朔が代表世話人でスタートを切りました。



3. 立ち上げ初期

この指とまれ方式、著名な先生を招き、講演会を開催して、「かがわ自主ぼう」のPRを図りました。月尾嘉男先生、室崎益輝先生、寒川 旭先生、東日本大震災後は石巻高校の校長先生など、いろいろな助成先を調べて、講演会の資金調達を行なっていましたが、1度、いかがわしい団体と思われ内定を取り消された事もありました。設立して4～5年は資金繰りが大変でした。個人的に出前講師でいただいた謝礼を毎年ためておいて、活動費に充当しておりました。



4. 活動が定着

東日本大震災の復興支援活動に石巻市と陸前高田市へ川西地区の自主防災会として参画、資機材やカンパなど県内自主防災からいただき、この取組みが新聞報道され、県内自主防災組織のパワーが社会評価を受け、これをキッカケに香川県から県内自主防災組織の育成事業を受託、年間約 50 団体（自主ぼう、自治会、婦人会、学校、福祉施設等）へ防災に関する取組みを行なっています。



5. 本格的に災害地復興支援活動

(1) 熊本地震（2014.4.16 発生）

4月23日出発、10日間のたきだし食、2tトラックと軽トラックに積み込んで8人グループ×3班編成にて、約8,000食を提供させていただいた。

現地へは高松、坂出、丸亀、三豊、観音寺地区からおもむき、朝、夕食はご飯類、昼食はうどん食とい



浜田県知事さんを迎えて出発式

うメニューで対応、宿泊場所は公民館の倉庫、避難場所となっていた秋津小学校体育館に約 200 人、お世話は小学校の先生、8 時間×3 交代で行なっており、地域の自主防災会等の姿はありませんでした。

(2) 西日本豪雨 (2018.7.6 発生)

倉敷市真備町へ瀬戸内海をはさんでの隣町、丸亀市とは古くから人と物の交流が大きく、被害状況聞いて、何とか応援しようと、ただちに人集め、移動手段などを検討、7 月 14 日～16 日、毎日 25 人、真備支所近くの 35 世帯の自治会において活動開始。水に浸った畳 100 枚位の運搬、泥まみれの室内の清掃、家具の搬出、この 3 日間の暑さは並大抵でなかった。8 月 8 日～9 日の 2 日間、小田川近くの「服部」地区にて支援活動。1 日目は野積みにされている土のう袋に入った災害土約 1,000 個、被災地への持ち込みの 2t トラックと軽トラック 3 台において指定された場所へ搬送。その後、2 戸の住宅へ入って復旧作業、更に最終日の夕方、付近の道路清掃も行なって作業完了。住民の皆さんから神様、仏様、サヌキ様と言われるほどに感謝していただいた。5 日間で 125 名参加、なお昼食は川西自主ぼうの女性チームによってお弁当を作っていた。



(3) 2020 年 7 月豪雨

九州の球磨川が氾濫。10 人位会員を集めて、支援準備を行なっていましたが、現地のボランティアセンターからコロナ感染防止のため、県外からの支援についてお断りされた。

6. 県内各地への防災研修と訓練

8 市 9 町すべて回ってきましたが、まちや地域の特性に特長がありました。そのまちのリーダーによるところもあります。

- 訓練の開会・閉会行事における立ち振る舞い、それと訓練中の取組み姿勢に、その街の特長がよく表れます。

○福祉施設への研修・訓練は、香川県いっせい避難訓練であるシェイクアウト訓練の「プラスワン」訓練として2017年度から取組み開始。2020年度には、40カ所において訓練を実施してきました。

避難訓練を重点的に行なっていますが、回を重ねるたびに取組み内容や取組み姿勢に自立心が強くなって、自分の体がままならない状態ですが、最後まで自力で安全な場所まで避難する姿に心を打たれたこともありました。

訓練のときは、かがわ自主ぼうの皆さんがいますが、夜間とか遠くにいる皆さんに甘えては、自分が助からないので言われ、極力、その福祉施設に近い自主ぼうや自治会の皆さんに共に参加してもらっています。



7. 広報紙（防災・減災の輪）の発行

自主防災活動をくまなくPRし、地域の防災活動に寄与できればと思って、かがわ自主ぼうの設立時初号として、当時県の防災部局のトップである「防災局長」さんから寄稿をいただき、記念の100号には知事さんからもお祝いを含め原稿を頂戴しました。

かがわ自主ぼうの専任事務局が無いまま、広報紙のお世話をしています関係上、役員改選等によって、あて先変更が多く発生しますが十分に対応できていない状況で、関係者の皆様にごめいわくかけている状況です。改善点として、変更の場合、事務局へFAX、メール等で変更通知をお願いしたいと思っています。

私に連絡いただくことが多いのですが、ほとんど車輛運転中で、十分に対応出来ないことをご了知下さい。

8. 今後の課題

- (1) 県内各地で頑張っている理事各位、もう少し回りへのネットワークを拡大してほしい。
- (2) すべての市・町で頑張っている理事並びに関係者の皆さんの次世代確保（若い人の登用）を行ってほしい。
- (3) 女性の関係者が少ないことです。イザ災害発生時の避難所運営、女性が多い場合、避難所の雰囲気、とてもしなやかで明るい現代のコロナ禍では、とても大切な要素となります。

<文責：岩崎正朔>

事務局だより

令和4年 8月

今月は岩手県の「ひかみの園」のお話です。

ミツ子さんの思い出

コロナの感染拡大がすごいスピードで第7波をむかえています。予定されている行事の見直しが求められると思いますが、スケジュールに余裕があるのであれば、日程変更するなどして、防災訓練は実施してほしいと思います。

この時期暑中お見舞いをおねてお便りが届きますが、中でも陸前高田市の「ひかみの園」からについては、胸がキューンとなります。

2011年5月2日東日本大震災に伴う復興支援で岩手県庁の依頼によって、大津波で打ちのめされた市街地から約100メートルの高地にあります。「障害者支援施設」であるひかみの園の体育館に避難されている皆様への“たきだし”支援でお伺いしました。

知的障がい者で菅野ミツ子さんが生活されており、たきだし食の豚汁に使用のお味噌が縁となって、3日間滞在している間、朝から晩まで対話しておりました。私供が石巻市へ移動する時、柱のカゲにかくれて泣いており、後髪をひかれる思いで別れたこと、今でも心に残っております。2年前、帰らぬ人となりましたが、それまでサヌキの味噌とソーメンを毎年贈っておりましたが、今年も「ひかみの園」から多くの写真入りで近況報告がありました。私より3才年上の菅野ミツ子さん（年老いても何時までも少女、私におじさんと呼び、一日の出来ごとのお話しをしてくださいました）大空のかなたで私供がゆく日を待っているのではないかと…。



<文責：岩崎正朔>

編集後記

8月の防災減災の輪は、岩崎会長が当会の設立15年を振り返ります。

今月から初代防災航空隊 隊長の多田 満氏（さぬき市寒川町）が、理事として参画されました。